



釜石市の野田市長（左端）に救援物資を届けた建設トッププランナー倶楽部幹事会の米田代表幹事（右から2人目）と文字氏（右端）

釜石市にも救援物資

建設トッププランナー倶楽部幹事会 地域の建設業が連携

全国の地域の建設業の有志で組織する建設トッププランナー倶楽部幹事会のメンバーが連携し、東日本大震災の被災地に救援物資を届けた。東北・関東地区で入手しにくくなっていく灯油やコメなどを中部地区の建設会社が提供した。

また、灯油の輸送に当たっては、長瀬土建（岐阜県、長瀬雅彦社長）がドラム缶を調達。鈴鍵（愛知県、梅村正裕社長）と和仁建設が計30000ポンドの灯油を確保した。

さらに富士建設（神奈川県、文字和男社長）が飲料水や紙オムツ、乾電池などの生活用品を集めた。介護事業に取り組んでいる瀬戸建設（神奈川県、瀬戸良幸社長）が介護関連用品などを用意した。

輸送は富士建設が担当し、同幹事会の代表幹事の米田雅子（慶応義塾大学教授も同行）も同行した。20日夕方に神奈川県内を出発、23日早朝に釜石市に到着。釜石市の災害対策本部で野田武則市長に救援物資を渡した。

富士建設の文字社長は19日にも仙台市に軽油や灯油、飲料水、食料などを運んだ。その時には、現場で復旧作業にあたっている仙台建設業協会災害応急措置協力会本部の副部長で、同倶楽部幹事会メンバーの深松組（仙台市、深松努社長）に物資を引き渡した。

また、同倶楽部幹事に参加する大場組（山形県、大場利秋社長）は、グループ企業の社会福祉法人の施設を避難所とし、被災者を受け入れている。

和仁建設（岐阜県、和仁松男社長）が2トンを提供した。

また、同倶楽部幹事に参加する大場組（山形県、大場利秋社長）は、グループ企業の社会福祉法人の施設を避難所とし、被災者を受け入れている。